

令和元年度一般会計補正予算説明資料

2 款 総務費

2 項 企画費

2 目 計画調査費

参画協働課→事業実施：地域づくり推進部県民参画協働課
(内線：7248) (単位：千円)

事業名	補正前	補正	計	財 源 内 訳				備考															
				国庫支出金	起債	その他	一般財源																
(新) 令和新時代創造 県民運動推進事業	0	13,631	13,631			(基金繰入金) 3,631 (寄附金) 10,000																	
トータルコスト	0	13,631	13,631	(補正に係る主な業務内容) 補助金交付事務、委託契約事務、県民運動 の周知・推進																			
従事する職員数	0.0人	0.0人	0.0人																				
工程表の政策目標(指標)	令和新時代創造県民運動の推進による地域の活性化																						
事業内容の説明				【「鳥取元気づくり推進基金」充当事業】																			
<p>1 事業の目的・概要</p> <p>新時代「令和」を迎え、「トットリズム県民運動」を発展・昇華させ、新たな住民参加型運動「令和 新時代創造県民運動」として、令和新時代を担う若者が主体の活動を広げていくとともに、クラウドフ ァンディング型ふるさと納税という新方式を活用して、多くの人の共感を得ながら取り組む活動を支援 するなどして、令和新時代の新しい活力を創造し、地域の活性化を一層進める。</p> <p>なお、当初予算で計上された「トットリズム県民運動推進事業」については、「令和新時代創造県民 運動」事業として実施していく。</p> <p>※「令和新時代創造県民運動」とは 令和新時代の新たな住民参加型運動として、若者を中心としたあらゆる年代や主体が地域をよくするために 行う活動や、クラウドファンディング等の新たな方式で、多くの人の共感を得て行う活動の総称。</p>																							
<p>2 主な事業内容</p> <p>(1) 令和新時代創造県民運動推進補助金(若者活動支援型)の新設 750千円 若者が主体となり県内で地域をより良くしようと自ら取り組む様々な地域づくり活動を支援する。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>予算額</th> <th>補助上限</th> <th>補助率</th> <th>補助対象</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">750 千円</td> <td style="text-align: center;">150 千円</td> <td style="text-align: center;">10/10</td> <td>若者による新たな取組(試行的な取組を含む)及びこれまでの 取組を拡充するもの</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 若者の地域活動への参加促進 511千円 ア ワーキングホリデー支援事業 330千円 県内で暮らしていても地域のことを知らない若者に対し、地域と関わるきっかけをつくること で、将来的な関係人口づくりと若者定着に繋げる。 イ 若者向け地域課題ワークショップ(出前講座)の開催 181千円 潜在的に地域づくりに興味がある若手層が一定数見込まれる大学等の協力を得ながら、大学等に 出向き、地域づくり活動を紹介する出前講座を行う。</p> <p>(3) 令和新時代創造県民運動推進補助金(チャレンジ型)の新設 11,870千円 地域課題の解決をさらに推進するため、クラウドファンディング型ふるさと納税を活用して、県内 外からより広く人々を巻き込み、共感を得ながら取り組む活動を支援する。 ※「クラウドファンディング」とは、インターネット上で広く支援を募り資金調達するサービスである。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>予算額</th> <th>補助上限</th> <th>補助率</th> <th>補助対象</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">10,000 千円</td> <td style="text-align: center;">2,000 千円</td> <td style="text-align: center;">10/10</td> <td>地域課題の解決をさらに推進するため、クラウドファンディ ング型ふるさと納税を活用して、より広く人々を巻き込み、共感 を得ながら取り組む活動</td> </tr> </tbody> </table> <p>(4) 「令和新時代創造県民運動」情報発信事業 500千円 「令和新時代創造県民運動」のスタートを広く発信することで県民への浸透を図るとともに、県民 運動としての機運を高めていく。</p>								予算額	補助上限	補助率	補助対象	750 千円	150 千円	10/10	若者による新たな取組(試行的な取組を含む)及びこれまでの 取組を拡充するもの	予算額	補助上限	補助率	補助対象	10,000 千円	2,000 千円	10/10	地域課題の解決をさらに推進するため、クラウドファンディ ング型ふるさと納税を活用して、より広く人々を巻き込み、共感 を得ながら取り組む活動
予算額	補助上限	補助率	補助対象																				
750 千円	150 千円	10/10	若者による新たな取組(試行的な取組を含む)及びこれまでの 取組を拡充するもの																				
予算額	補助上限	補助率	補助対象																				
10,000 千円	2,000 千円	10/10	地域課題の解決をさらに推進するため、クラウドファンディ ング型ふるさと納税を活用して、より広く人々を巻き込み、共感 を得ながら取り組む活動																				
<p>3 これまでの取組状況、改善点</p> <p>平成28年度に「トットリズム県民運動」を開始し、様々な地域づくり活動が行われてきたが、「令和 新時代創造県民運動」として、活動の裾野を広げて地域づくり活動の一層の拡充を図っていく。</p>																							

令和元年度一般会計補正予算説明資料

2 款 総務費

2 項 企画費 女性活躍推進課→事業実施：令和新時代創造本部女性活躍推進課（内線：7077）

1 目 企画総務費 (単位：千円)

事業名	補正前	補正	計	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新) 活躍の場をひろげるワーク・ライフ・バランス推進事業	0	2,000	2,000	1,000			1,000	
トータルコスト	0	2,794	2,794	(補正に係る主な業務内容)				
従事する職員数	0.0人	0.1人	0.1人	連絡調整、委託契約事務等				
工程表の政策目標(指標)	仕事と家庭の両立支援、女性活躍の推進							
事業内容の説明				【「地域女性活躍推進交付金」充当事業】				
<p>1 事業の目的・概要</p> <p>働く女性を取り巻く環境が共通する山陰両県において、山陰を一つにつなぐ「One-In」連携の取組の一つとして、両県が連携して、ワーク・ライフ・バランスの実践を促す広域的な情報発信・普及啓発を行うことで、女性の働きづらさの要因となっているパートナー間の“家事育児の偏り”を解消し、男性の家庭での活躍を促進するとともに、働く場における女性の働きやすさ・活躍機会の増大に繋げる。</p>								
<p>2 主な事業内容</p> <p>○家事シェアを促進する情報発信・普及啓発</p> <p>ワーク・ライフ・バランスの実践に繋がる「家事シェア」や「男性の家事育児参画」を手伝いではなく当たり前なこととして捉え肯定する、両県共通のイメージロゴや、キャッチフレーズを用いて、ワーク・ライフ・バランスの実践による仕事と家庭の好循環の事例等を多様な媒体により広く情報発信を行う。</p> <p>[発信媒体：テレビ、ホームページ又はSNSなど]</p>								
<p>3 これまでの取組状況、改善点</p> <p>男女ともに仕事と家庭を両立し、家庭・地域・働く場でいきいきと活躍できるよう、パートナーと負担を分かち合う“家事シェア”を考える参加型セミナーなどを通じて、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組んでいる。</p>								

令和元年度一般会計補正予算説明資料

2款 総務費

2項 企画費

情報政策課 (内線: 7953)

2目 計画調査費

(単位: 千円)

事業名	補正前	補正	計	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新) AI・RPA等最先端ICT技術活用推進事業	0	2,438	2,438				2,438	
トータルコスト	0	2,438	2,438	契約事務、関係課との連絡調整				
従事する職員数	0.0人	0.0人	0.0人					
工程表の政策目標(指標)	-							
事業内容の説明								
<p>1 事業の目的・概要</p> <p>近年のICT分野の進化は目覚ましく、AI、RPA(ソフトウェアロボット)、SNS、ドローン、IoTなど、新しい技術が様々な分野で業務や研究等に幅広く活用されている。自治体においても、人口減少や県民ニーズの多様化が加速する中、これまで以上に職員一人ひとりの生産性の向上や仕事の質の向上が求められる時代となっている。職員の働き方改革と平行し、更なる業務効率及び県民サービス向上を目指すためには新たなICTの活用が不可避であり、今後3か年で、最新ICTを活用した県庁業務改革(デジタルトランスフォーメーション:「DX県庁3年計画」)を推進する。</p> <p>※DXとは:近年、民間での取組みが活性化している「デジタルトランスフォーメーション(デジタルテクノロジーを駆使して、経営の在り方やビジネスプロセスを再構築すること。)」を示す略語。「ディーエックス」と読む。</p> <p>2 主な事業内容</p> <p>AIチャットボット実証実験</p> <p>AIチャットボットの導入により、問い合わせが多い事務では、問い合わせする者が時間を気にせず早く・正確に求める答えにたどり着けるなどの行政サービス向上が期待できる。また、問い合わせ対応職員の業務を自動化することにより、職員の業務負荷の軽減に繋がる可能性があることから、AIチャットボットの有効性について実証実験を行うとともに、AIチャットボット運用時の課題等についてもあわせて検証する。</p> <p>○期間 8月～令和2年3月末(8か月間)</p> <p>○内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県民向けAIチャットボット 想定業務: 県税手続きに係る問い合わせ対応 ・職員向けAIチャットボット 想定業務: 会計事務に係る問い合わせ対応 <p>※AIチャットボットとは チャットボットとはチャット(会話)とボット(ロボット)を組み合わせた言葉で、AIチャットボットとは、人工知能(AI)技術とチャットボット技術を組み合わせた「対話型自動応答プログラム」をいう。</p> <p>3 これまでの取組状況、改善点等</p> <p>昨年度から次の取組を開始しており、随時、効果を検証しながら拡大していくこととしている。(昨年度の取組)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○AI音声認識(会議録作成支援): 本年2月より実証実験を開始 → 本年7月を目途に本格導入予定 ○RPA: 本年2月、総合事務センターに導入し、4月1日より本格稼働中。 → 9月補正予算において、全庁業務に拡大予定 <p>(現在の適用業務)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通勤手当承認業務 ・ANA@デスク発券承認業務 								

令和元年度一般会計補正予算説明資料

2 款 総務費

1 項 総務管理費

資産活用推進課（内線：7088）

7 目 財産管理費

（単位：千円）

事業名	補正前	補正	計	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
（新）公共施設キャッシュレス化推進事業	0	1,068	1,068				1,068	
トータルコスト	0	1,068	1,068	（補正に係る主な業務内容）				
従事する職員数	0.0人	0.0人	0.0人	委託事務				
工程表の政策目標（指標）								
事業内容の説明								
<p>1 事業の概要</p> <p>施設利用者の利便性向上を図るため、本県の指定管理者制度導入施設における利用料金等の支払にキャッシュレス決済を導入する。</p> <p>2 導入想定施設</p> <p>指定管理施設のうち、観光施設や体育施設など、電子マネーなどキャッシュレス決済による利用が多く見込まれる施設。</p> <p>3 主な事業内容</p> <p>（1）内容</p> <p>①キャッシュレス決済導入のための環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット回線整備 ・端末機器設置 等 <p>②キャッシュレス決済の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クレジットカード会社との契約事務 ・利用者への対応 ・支払証拠書類（レシート等）の管理 等 <p>（2）実施方法</p> <p>施設の指定管理者へ業務を委託</p>								

令和元年度一般会計補正予算説明資料

2 款 総務費

交通政策課（内線：7641）

2 項 企画費

→事業実施：地域づくり推進部地域交通政策課

3 目 交通対策費

（単位：千円）

事業名	補正前	補正	計	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新)バス路線番号を活用した公共交通利便性向上事業	0	2,280	2,280				2,280	
トータルコスト	0	4,188	4,188	(補正に係る主な業務内容) 県西部地域のバス路線番号設定、バスターミナル案内表示案の作成、案内表示設置等への補助				
従事する職員数	0.0人	0.2人	0.2人					
工程表の政策目標(指標)	—							

事業内容の説明

1 事業の目的・概要

交通結節点における路線バスのわかりやすさ、使いやすさの向上を図り、海外インバウンド客や国内観光客の移動利便性、満足度の向上につなげるため、地域公共交通再編実施計画を策定した西部地域のバス路線に路線番号設定を行うとともに、主要結節点である米子駅前バスターミナルにおいて、路線番号を活用した案内表示の設置等に対する支援を行う。

2 主な事業内容

(1) 西部地域バス番号設定、バスターミナル案内表示案の作成 1,280千円

バス事業者、観光関係団体、行政などの実務者で構成する検討会議を通じて、西部地域の乗合バス路線への番号設定、米子駅前バスターミナルにおける路線番号表示等を活用した効果的な案内表示案の作成を行う。

(2) 案内表示の改良等への補助 1,000千円

米子駅前バスターミナルにあるバス路線案内表示等を路線番号・英語表記等を活用したわかりやすい内容に改良する経費や路線番号を盛り込んだ観光客向けバスマップ（日本語版・英語版）を作成する経費を支援する。

- ・実施主体 (一社) 鳥取県バス協会
- ・支援割合 補助率：1/2
- ・補助上限 1,000千円

※バス車両の行先表示器やバス停時刻表への路線番号の掲出は、各バス事業者において実施する。

(3) その他の取組（バスネット等との連携）

バスネット検索結果への路線番号情報の追加や駅観光案内所との路線番号情報の共有等を行うことで、バスターミナル到着前や下車後の観光客の利便性を向上する。

3 これまでの取組状況、改善点

外国人観光客に対するおもてなし機能や受入体制の強化を図るため、平成28年度に県内バスターミナルの多言語化等を実施したところであるが、路線バスの行先案内がわかりにくいといった利用者の意見が多いことから、バス路線番号設定等を地域公共交通再編実施計画を策定した西部地域で先行的に実施し、次年度以降に中部、東部地域に展開していく。

令和元年度一般会計補正予算説明資料

2 款 総務費

交通政策課（内線：7100）

2 項 企画費

→事業実施：地域づくり推進部地域交通政策課

3 目 交通対策費

（単位：千円）

事業名	補正前	補正	計	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
（新）【鳥取県版】 新たな地域交通体系構築事業	0	(債務負担行為 15,000) 15,450	15,450				(債務負担行為 15,000) 15,450	
トータルコスト	0	19,419	19,419	（補正に係る主な業務内容） 研究会開催、補助金事務、再構築取組支援（アドバイザー派遣）				
従事する職員数	0.0人	0.5人	0.5人					
工程表の政策目標(指標)	—							

事業内容の説明

1 事業の目的・概要

県内、特に中山間地域においては、自家用車依存、人口減少等による公共交通利用者の減少やドライバー不足からバス事業者の撤退や路線の廃止、縮小が進み公共交通体系の再構築が必要となっていることから、市町村が地域の実情・ニーズを把握しながら策定する地域交通体系再編計画策定への支援や、再編に基づくタクシー助成を実施するとともに、今までバス中心であった公共交通の確保・維持に係る県支援制度を地域の実情に応じた制度への改正に向けた検討を進める。

2 主な事業内容

(1) 新たな地域交通体系構築のための研究会 150千円

今までバス中心であった公共交通の確保・維持に係る支援制度について、地域の実情に応じたタクシー助成や住民主体の共助交通等と組み合わせた支援制度への改正を検討するための研究会を設置する。

(2) 新たな地域交通体系構築支援

① アドバイザー派遣制度 300千円

市町村の依頼を受け、県及びアドバイザーと一緒に路線再編の方向づけを行い、市町村の地域交通体系の再構築に向けた取組をサポートする。

② 地域交通体系構築支援補助金 10,000千円

市町村内路線の再編計画「地域交通体系再編計画」を策定する市町村への支援を行う。

補助率	1 / 3
補助上限額	2,000千円
事業期間	最大12か月
支援内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先進地視察、研修会参加費 ・ 協議会の開催に要する経費（委員旅費、会議資料印刷費等） ・ 計画策定のための各種調査費用（地域のデータ収集・分析、住民アンケート実施費用等） ・ 共助交通の導入検討に要する費用 ・ ドライバー募集に係る費用、運行に必要な免許・資格取得、研修・教育に要する経費 ・ 再編路線の利用促進に要する費用

※原則、1市町村1回限りとする。

③ 市町村へのタクシー補助制度 5,000千円

②の「地域交通体系再編計画」を策定する中で位置づけられたタクシー助成への補助制度を創設し、住民ニーズの把握や効果検証を行いながら次年度以降のタクシー補助制度の本格運用につなげる。（補助率1/2 補助上限額1,000千円）

3 これまでの取組状況、改善点

今までバス中心であった公共交通に係る支援制度を、県、市町村、交通事業者が一緒になって地域の実情・ニーズを把握しながら、地域の実情に応じたタクシー助成や共助交通等と組み合わせた支援制度となるよう制度改正を検討し、特に中山間地の公共交通の維持確保を図る。

令和元年度一般会計補正予算説明資料

2 款 総務費

文化財課 (内線：7932)

2 項 企画費

→地域づくり推進部とっとり弥生の王国推進課

6 目 文化財保護費

(単位：千円)

事業名	補正前	補正	計	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新) 史跡青谷上寺地遺跡整備事業	0	59,742	59,742		<42,400> 58,000		1,742	県費負担額 44,142
トータルコスト	0	59,742	59,742	(補正に係る主な業務) 用地買収、委員会実施				
従事する職員数	0.0人	0.0人	0.0人					
工程表の政策目標 (指標)	文化財の保存、活用、伝承 豊かな人間性、社会性を育む教育の推進							
事業内容の説明								
1 事業の概要								
青谷上寺地遺跡史跡指定地外に設けるエントランスに必要な土地を公有化するとともに、とっとり弥生の王国調査整備活用委員会整備活用部会等を開催し、遺跡の整備活用の課題等を検討する。								
2 事業内容 (単位：千円)								
区分	補正予算額	事業内容						
土地の公有化	58,691	公有化面積：7,186.50 m ² 用途：駐車場、展示等施設、ガイダンス施設						
調査整備活用委員会整備活用部会	129	遺跡の整備活用の課題等を検討するため専門家による委員会を開催する。						
整備現地指導	922	青谷上寺地遺跡の現地でワーキングを開催し、将来の活用事業について、有識者と担当職員、鳥取市等の関係機関の職員が意見を交換する。						
合計	59,742							
3 これまでの取組状況・改善点								
国史跡青谷上寺地遺跡を保存・整備・活用するため、史跡指定地を平成20年度から10ヵ年かけて公有化している。史跡指定地(民有地)の公有化率は平成30年度末で96.5%となった。平成28年度から平成30年度にかけて基本設計を策定した。青谷上寺地遺跡が歴史観光の資源となるよう史跡整備を実施し、利活用に向けた環境づくりを行う。								

(注) 起債欄の上段< >書きは交付税措置額を除いた額である。

備考欄の県費負担額は起債欄の< >書きの金額と一般財源の金額を加算したものである。

令和元年度一般会計補正予算説明資料

2 款 総務費

2 項 企画費

6 目 文化財保護費

文化財課(内線:7932)

→事業実施:地域づくり推進部とっとり弥生の王国推進課

(単位:千円)

事業名	補正前	補正	計	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新)「とっとり弥生の王国」情報発信事業	0	10,401	10,401	4,306			6,095	
トータルコスト	0	10,401	10,401	(補正に係る主な業務)				
従事する職員数	0.0人	0.0人	0.0人	弥生時代人の復顔、人骨研究成果講演会、重要文化財指定記念展示・講演会、モニタリングツアーの開催等				
工程表の政策目標(指標)	文化財の保存、活用、伝承 豊かな人間性、社会性を育む教育の推進							

事業内容の説明

1 事業の概要

鳥取県が全国に誇る「青谷上寺地遺跡」・「妻木晩田遺跡」の2大遺跡を「とっとり弥生の王国」として一体的に情報発信することで、よりスケールの大きなとっりの文化遺産としてイメージの定着を図り、さらに地域づくりや地域振興、観光資源化等につなげることを目指して、青谷上寺地遺跡出土人骨のDNA分析成果の活用や出土品の重要文化財指定を契機とした情報発信を行う。

2 事業内容

(単位:千円)

区分	補正予算額	事業内容
青谷上寺地遺跡出土人骨等を活用した情報発信	3,365	○弥生時代の復顔模型の作製・展示 ・形質的特徴の情報が十分に得られる頭骨の模型を土台にしてゲノム解析により明らかになった外見的な特徴を付加し、青谷弥生人の顔を忠実に再現する。 ・完成した模型は、県内の展示施設などを巡回展示する。 ○出土人骨の最新研究成果についての講演会開催 ・青谷上寺地遺跡出土人骨の最新研究成果についての講演を行う。 ・人類学や考古学の専門家によるトークセッションを行う。 ○とっとり弥生の王国魅力発見モニタリングツアー ・秋(10月頃)にツアーを実施する。ツアーに合わせ、史跡指定20周年を迎える妻木晩田遺跡を公園内でライトアップする。
青谷上寺地遺跡出土品の重要文化財指定を契機とした情報発信	7,036	○重要文化財指定記念展覧会の開催 ・重要文化財指定品のうち、優れた造形美や技術の高さ、交易拠点としての繁栄を示す約300点を県立博物館で展示公開する。 ○重要文化財指定記念講演会の開催 ・重要文化財に指定品された青谷上寺地遺跡出土品について、「弥生の美と技」などをテーマとした記念講演会を2回実施する。 ○とっとり弥生の王国魅力発見モニタリングツアー ・春(令和2年3月頃)に重要文化財指定記念展・同講演会にあわせてツアーを実施する。
合計	10,401	

3 これまでの取組状況・改善点

埋蔵文化財センターでは、平成30年度から国立科学博物館、国立歴史民俗博物館との共同研究により、青谷上寺地遺跡出土人骨のDNA分析を進めており、日本列島人の成り立ちを解明するための大きな手がかりが得られつつある。今後、核DNAの詳細な分析が行われ、ゲノムの解析によって遺伝的特徴(混血の状況、個体の形質等)の解明が期待される。

青谷上寺地遺跡は、多種多様な弥生時代の遺物が極めて良好な状態で発見されたことにより「地下の弥生博物館」と呼ばれ、弥生時代の生活や文化をリアルに物語るこれらの出土遺物は、弥生文化の研究にとって欠くことのできない資料として高く評価され、平成31年3月18日に1,353点を国重要文化財に指定することが答申された。

令和元年度一般会計補正予算説明資料

2 款 総務費 文化財課（内線：7932）
 2 項 企画費 →事業実施：地域づくり推進部とっとり弥生の王国推進課
 7 目 埋蔵文化財センター費 （単位：千円）

事業名	補正前	補正	計	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新) 古代山陰道 (青谷地域) の調査 研究事業	0	4,272	4,272	2,082			2,190	
トータルコスト	0	4,272	4,272	(補正に係る主な業務) 古代山陰道の発掘調査、航空レーザーによる地形測量、古環境復元に係る土壌分析				
従事する職員数	0.0人	0.0人	0.0人					
工程表の政策目標(指標)	文化財の保存、活用、伝承 豊かな人間性、社会性を育む教育の推進							

事業内容の説明

1 事業の概要

青谷上寺地遺跡や青谷横木遺跡では、古代山陰道の道路遺構が極めて保存状態良く見つかり、国内初となる柳の街路樹や朝鮮半島から伝わった高度な土木技術である敷葉・敷粗朶工法が発見されるなど、全国的な注目を集めている。青谷地域の古代山陰道の調査研究を継続・進化させ、国史跡指定により更なる価値づけを目指すとともに、地域振興や観光振興に活かしていく。

さらに古代山陰道の成果は、青谷上寺地遺跡の史跡整備にも取り入れ、遺跡のもつ歴史的価値をより一層高め、新たな魅力発信にもつなげていく。

2 事業内容

(単位：千円)

区分	補正予算額	事業内容
古代山陰道の調査研究	4,158	・推定ルートでの現地踏査 ・現地踏査で発見された切通しでの発掘調査 ・推定ルートでの航空レーザーによる地形測量 ・現地説明会やウォーキングによる情報発信
青谷平野の古環境復元(奈良文化財研究所との共同研究)	114	・青谷横木遺跡周辺の土壌分析
合計	4,272	

3 これまでの取組状況・改善点

平成30年度から行っている現地踏査で、青谷の東西両丘陵において道路痕跡とみられる大規模な切通しを発見した。これらの切通しは、青谷上寺地遺跡や青谷横木遺跡から続く古代山陰道の可能性が高い。

青谷の古代山陰道は遺構の保存状態が極めて良好で、古代道路の構造や特徴を具体的に解明できる稀有な事例として、国史跡の指定を目指すことが可能である。また、青谷上寺地遺跡の史跡整備でも古代山陰道を復元するゾーンが設けられる予定であり、その整備にも調査研究の成果を生かすことができる。

なお、平成30年度に2回開催した「古代山陰道ウォーク」イベントで、古代山陰道の道路跡地やルート上の関連遺跡等を巡りながら、調査研究状況の現地説明を行ったところ、予想以上の参加者があり、古代山陰道や青谷に関連した遺跡への関心の高さが窺われた。参加者のアンケートでも今後の調査研究に対する期待の高さが窺われ、継続して調査研究を行い、その成果を効果的に発信していくことが求められている。

令和元年度一般会計補正予算説明資料

2 款 総務費

2 項 企画費

6 目 文化財保護費

文化財課（内線：7937）

→事業実施：地域づくり推進部文化財課

（単位：千円）

事業名	補正前	補正	計	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新) 名刀「古伯耆物」日本刀顕彰推進事業	0	3,342	3,342				3,342	
トータルコスト	0	3,342	3,342	(補正に係る主な業務)				
従事する職員数	0.0人	0.0人	0.0人	名刀「古伯耆物」に関する普及啓発、調査研究				
工程表の政策目標（指標）	文化財の保存、活用、伝承							

事業内容の説明

1 事業の概要

昨年、春日大社が所蔵する太刀に「古伯耆物」があることが判明し大きな話題となった。これを受け、春日大社宮司と面談する中で、同社と県が連携して「古伯耆物」の顕彰を推進することとし、「名刀「古伯耆物」日本刀顕彰連合」を設立（平成30年2月14日）した。

春日大社と連携して、関西地方において鳥取の魅力を発信するため、刀剣とたたらの普及啓発、名刀「古伯耆物」の調査研究を進める。

2 事業内容

（単位：千円）

区分	補正予算額	事業内容
普及啓発事業	2,000	○伯耆のたたらと刀剣フォーラム 【場所】奈良県内（予定） 【時期】令和2年1～3月 【内容】春日大社と連携して、鳥取県（伯耆）のたたらと刀剣の歴史・文化等を知っていただくとともに、並行して実施する調査研究成果発表の場とする。
調査研究事業	1,342	○名刀「古伯耆物」調査研究事業 春日大社の「古伯耆物」を中心に、全国各地の「古伯耆物」に関する研究を進め、その魅力や特色を明らかにすることによって、ふるさと教育や観光・地域振興に資する。 【調査】刀剣研究者とともに全国各地の「古伯耆物」の調査研究を進める（342千円）。 【分析】「古伯耆物」の成分分析等により理化学的な特徴を見出し、無銘刀剣の中からの新たな「古伯耆物」の発見等に資するものとする。（1,000千円）
合計	3,342	

3 これまでの取組状況・改善点

昨年度、鳥取県中西部を中心に伯耆国「大山開山1300年祭」事業を展開し、プロジェクトの1つでもある「『大山』の恵みを感じるプロジェクト」では、「日本刀」、「たたら」をテーマに大山の歴史・文化を発信してきた。

令和元年度一般会計補正予算説明資料

8款 土木費

5項 都市計画費

緑豊かな自然課（内線：7403）

3目 公園費

（単位：千円）

事業名	補正前	補正	計	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新)みどりの愛護推進事業	0	5,320	5,320				5,320	
トータルコスト	0	5,320	5,320	(補正に係る主な業務内容)				
従事する職員数	0.0人	0.0人	0.0人	制度要綱作成、委託発注、催し実施に係る事務等				
工程表の政策目標(指標)	鳥取の自然を活かした緑づくりを地域全体で進めていく。緑化活動を支える関係団体との連携や住民主体の活動への支援に重点的に取り組む。							
事業内容の説明								
1 事業の目的・概要								
第30回全国「みどりの愛護」のつどい（令和元年度）開催を契機に高まった都市緑化推進の機運を継承し、新しい時代に相応しい鳥取の豊かな自然や環境を活かした地域主体の緑のまちづくりを推進する。								
2 主な事業内容 (単位：千円)								
区分	内容						予算額	
みどりの愛護開催記念「とっとり緑のまちづくり」コンテストの実施	四季折々に花や緑を育み、快適な環境づくりや地域の景観づくりに貢献する「みどりの愛護」活動を行う者を表彰することにより、県民の花と緑のまちづくりへの意欲向上を図り、地域主体の緑のまちづくりの推進を図る。						600	
「みどりの伝道師」の登録及び派遣制度の創設	県内の緑化技術者を登録し、「みどりの愛護」活動団体等が取り組みたい緑化ニーズに応じて指導者として派遣する制度を創設する。						1,300	
鳥取みどりの交流会の開催	県内の「みどりの愛護」活動団体や緑化関係者が、それぞれの活動を参考としながら、互いに連携し情報交換や仲間づくりなどができる交流会を開催する。						1,200	
みどりの愛護記念モデル園地の整備	第30回全国「みどりの愛護」のつどい開催を記念して、県の玄関口等の園地を緑化のモデルとして整備し、県の多様な自然の豊かさとその取組をPRする。						2,220	
合計							5,320	
3 これまでの取組状況・改善点								
第30回全国都市緑化とっとりフェア（平成25年開催）を契機に、鳥取の幅広い緑化の普及啓発、人材育成等の取組に努め、ナチュラルガーデンをはじめとした鳥取ならではの魅力的な緑のまちづくりが芽生えた。								
このたび令和元年5月18日に、秋篠宮皇嗣同妃両殿下のご臨席を賜り、「みどりの愛護」活動を行う団体を顕彰する「第30回全国『みどりの愛護』のつどい」を県立布勢総合運動公園において開催した。全国及び県内各地から緑化関係者が一堂に集い盛大に催され、県内の緑のまちづくりへの関心や機運が更に高まった。								
これを契機に、緑を慈しみ美しいふるさとを守り育てる運動として「みどりの愛護」活動が県内全域に広がり、令和時代のモデルとして次の世代へと受け継がれ、鳥取から全国へ展開するよう、その活動を支援する。								

令和元年度一般会計補正予算説明資料

8款 土木費

1項 土木管理費

4目 建築指導費

住まいまちづくり課（内線：7390）→

事業実施：地域づくり推進部中山間地域政策課

（単位：千円）

事業名	補正前	補正	計	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
空き家利活用推進総合支援事業	2,900	9,600	12,500	4,320			5,280	
トータルコスト	6,869	9,600	16,469	(補正に係る主な業務内容)				
従事する職員数	0.5人	0.0人	0.5人	補助金事務、調査研究				
工程表の政策目標(指標)	—							

事業内容の説明

1 事業の目的・概要

市場では流通しづらい空き家の利活用を進めるため、利活用に取り組む専門家団体の活動支援に加え、必要な改修工事等への助成、空き家を活用するまちづくりへの支援、貴重な文化資源である古民家空き家の活用モデルの研究など総合的な施策を講じる。

2 主な事業内容

(単位：千円)

区分	内容	予算額
空き家利活用流通促進事業 (間接補助事業)	一般に流通しない空き家の利活用を行うものに必要な経費の一部を助成し、空き家の利活用を促進する。 ・対象経費：空き家利活用に必要な設計、家財道具の撤去処分、建物の改修等の費用 ・補助上限：改修し住宅として活用する場合（900千円） 改修し店舗等として活用する場合（1,500千円） ・補助率：1/2(市町村 1/6、県 1/3※)	6,600
地域の空き家を活用したまちづくり推進事業 (間接補助事業)	空き家所有者と利活用希望者との橋渡し等、地域に根付いた取組を進める「まちづくり団体」等による空き家の利活用計画の策定や、地域の機運醸成等に必要な活動経費の一部について助成を行う。 ・補助対象者：地域のまちづくり団体、自治会等 ・対象経費：空き家利活用に必要な調査、ワークショップ開催、計画策定等の費用 ・補助上限：600千円 ・補助率：10/10(市町村 1/3、県 2/3※)	1,200
古民家空き家利活用モデル事業 (県直接事業)	空き家となっている古民家（登録文化財クラス）を資源として活用し、地域の魅力創出やブランド化につなげるための調査研究、事業構想策定をモデル的に県内2地区で実施する。 また、現行の建築基準法に適合が困難な古民家について、法適合に必要な代替措置等の検討を行う。	1,800
合計		9,600

※県は社会資本整備総合交付金を活用（国 45%、県 55%）

3 これまでの取組状況・改善点

- ・空き家の利活用促進に向け、宅地建物取引業協会、建築士会、司法書士会、土地家屋調査士会で構成する「とっとり空き家利活用推進協議会」に対し活動経費の一部を助成し、所有者や利活用希望者に対する相談会や、利活用に向けたシンポジウムの開催、人材の育成等を支援している。
- ・他方、立地や老朽化等の理由により不動産価値の低い空き家は、不動産事業者が取り扱わない等の課題があり、利活用につなげていくための施策が必要である。
- ・空き家物件では地域性や所有者の事情等により利活用が進みにくい場合も多く、地域のまちづくり団体による支援、自治会活動等との連携や利活用のアイデア創出が必要となっている。
- ・また伝統工法によって建築されている古民家等の利活用を進める上では現行の建築基準法への適合が課題となることが多く、法適合に必要な代替措置等の検討が必要となっている。

令和元年度一般会計補正予算説明資料

7 款 商工費
1 項 商業費
2 目 商業振興費

企業支援課（内線：7242）
（単位：千円）

事業名	補正前	補正	計	財源内訳				備考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新)「One - In」圏域連携促進支援事業	0	〔債務負担行為〕 4,000 5,040	〔債務負担行為〕 4,000 5,040				〔債務負担行為〕 4,000 5,040	
トータルコスト	0	5,040	5,040	(補正に係る主な業務内容)				
従事する職員数	0.0人	0.0人	0.0人	関係商工団体との連絡調整、補助金交付事務、会議開催				
工程表の政策目標(指標)	—							

事業内容の説明

1 事業の目的

山陰道・鳥取西道路・山陰近畿自動車道等の高規格道路網の整備や境港フェリーターミナルの完成等により、今後本県ではヒト・モノの流れの活発化・効率化や広域観光交流圏の拡充・強化が見込まれる。これらの外部環境と密接な関係がある卸・小売業、運輸業、サービス業等の業種においては、商圏拡大や物流機能構築の好機であり、また、県内商工団体においては他圏域の商工団体との交流連携が容易になることが想定されることから、他圏域の個別企業や商工団体との連携を促進し、県内企業の商圏拡大及び地域経済活性化に繋げていく。

「One - In」圏域とは…高規格道路網の整備等を契機に、但馬地域や島根県を含め1つのエリアとして一体的に取り組む経済・観光圏域のこと

2 主な事業内容

単独の事業活動では得られない更なる相乗効果（企業の収益性向上や地域経済活性化等）を創出するため、他圏域の商工団体と連携した取組や企業間の連携した取組を支援するとともに物流機能活性化等の検討や統計データの活用を通じた更なる商圏拡大を図るためのセミナーを開催する。

(1) 商工団体の他圏域交流連携支援 <予算額 1,000千円>

事業内容	通常の単独の事業活動では得られない相乗効果（事業者の収益性向上や地域経済活性化等）の創出を図るため、県内商工団体が実施する他圏域の商工団体との連携した取組を支援
補助上限	1 団体あたり上限500千円（補助率10/10）
対象経費	県内商工団体が他圏域（鳥取・島根・兵庫）の商工団体との交流連携等に要する会場使用料・旅費等の経費

(2) 商圏拡大支援事業（調査型）<予算額 3,000千円>

事業内容	他圏域（鳥取・島根・兵庫）の企業との企業間連携により商圏拡大を目指す事業者等が実施する商圏拡大に資するための調査検討に要する経費を支援
補助上限	1,000千円
補助率	1/2
実施期間	12ヶ月以内
補助要件	他圏域（鳥取・島根・兵庫）の企業と連携して商圏拡大を目指す事業者等のモデル的取組
対象経費	市場調査費用、テストマーケティング費用、外部専門家活用費用等

※『企業間連携』とは、通常の単独の事業活動では得られない相乗効果（製造品、売上額等）を生み出すことを目的とした同業・異業種間の共同活動をいう。

(3) 広域物流構築会議 <予算額 700千円>

検討内容	One - In連携による物流活性化、発展する物流網の活用、輸送体制の構築等
出席者	○運送事業者（トラック、JR貨物、海運、航空等） ○外部専門家（物流関係有識者、物流コンサルタント等） ○荷主企業、業界団体、関係商工団体 ○行政関係機関（国交省鳥取運輸支局、鳥取県等）
対象経費	検討会経費（講師謝金、旅費、会場使用料）

(4) 地域経済統計活用セミナー <予算額 340千円>

事業内容	圏域の産業統計データを活用し、One - In連携による県内事業者の商圏拡大・新規需要拡大に向けて、事業者を対象とした統計データ活用セミナーを実施
対象経費	セミナー経費（講師謝金、旅費）

3 これまでの取組状況、改善点

平成25年の鳥取自動車道開通時、県内の卸小売・サービス事業者等が行う商圏拡大・県外海外需要獲得に伴う個社の取組に対して、展示会・商談会経費、マーケティング調査費、専門家経費等を支援した結果、取引先の拡大や売上増等に繋がった好事例も見られた。

今回創設する制度においては、他圏域連携による商工団体間や企業間の取組支援のほか、物流機能及び産業統計活用の側面からも企業の商圏拡大を支援していく。

令和元年度一般会計補正予算説明資料

6 款 農林水産業費

1 項 農 業 費

食のみやこ推進課（内線：7853）

1 目 農業総務費

（単位：千円）

事業名	補正前	補正	計	財 源 内 訳				備 考						
				国庫支出金	起債	その他	一般財源							
(新) 「食のみやこ鳥取県」 ×「農泊」体験事業	0	3,200	3,200	2,500			700							
トータルコスト	0	6,375	6,375	（補正に係る主な業務内容） 企画運営、普及啓発										
従事する職員数	0.0人	0.4人	0.4人											
工程表の政策目標（指標）	県内外への「食のみやこ鳥取県」の浸透、県産農林水産物のPR													
事業内容の説明														
<p>1 事業の目的・概要</p> <p>鳥取和牛、ジビエ、岩ガキ、スイカをはじめとする魅力ある「食のみやこ鳥取県」の食材を活用した料理や農林漁業体験、生産者との交流等が楽しめる旅行プランを造成し、大手旅行サイト等を活用してPRすることで、「食体験」を通じて「食のみやこ」の魅力を発信するとともに観光誘客にもつなげる。</p>														
<p>2 主な事業内容 （単位：千円）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">事業項目</th> <th style="width: 60%;">事業内容</th> <th style="width: 20%;">予算額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大手旅行サイトを活用した食体験付きプランのPR</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・個人向け大手宿泊予約サイトを活用して、体験メニューを紹介する特集サイトを作成する。 ・体験メニューや農泊を実施又は実施を検討する事業者向けの説明会を開催し、体験メニューの充実を図る。 </td> <td style="text-align: center;">3,200</td> </tr> </tbody> </table>									事業項目	事業内容	予算額	大手旅行サイトを活用した食体験付きプランのPR	<ul style="list-style-type: none"> ・個人向け大手宿泊予約サイトを活用して、体験メニューを紹介する特集サイトを作成する。 ・体験メニューや農泊を実施又は実施を検討する事業者向けの説明会を開催し、体験メニューの充実を図る。 	3,200
事業項目	事業内容	予算額												
大手旅行サイトを活用した食体験付きプランのPR	<ul style="list-style-type: none"> ・個人向け大手宿泊予約サイトを活用して、体験メニューを紹介する特集サイトを作成する。 ・体験メニューや農泊を実施又は実施を検討する事業者向けの説明会を開催し、体験メニューの充実を図る。 	3,200												
<p>3 これまでの取組状況、改善点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度に「和牛王国とっとり」推進事業の中で、「『肉質日本一！鳥取和牛』を食べに行く旅」を大手旅行サイトを活用しPRしたところ、多くの旅行者の誘客をすることができた。 ・「食」による誘客対策をさらに進めるため、「食のみやこ鳥取県」の食材を活用した料理や農林漁業体験、生産者との交流等が楽しめる旅行プランを大手旅行サイト等を活用してPRすることで、「食のみやこ鳥取県」のファンを増やしていく。 														

令和元年度一般会計補正予算説明資料

6 款 農林水産業費

1 項 農 業 費

食のみやこ推進課 (内線 : 7853)

1 目 農業総務費

(単位 : 千円)

事業名	補正前	補正	計	財 源 内 訳				備 考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
とっとりジビエ全県普及推進事業	18,896	2,432	21,328	1,216			1,216	
トータルコスト	30,803	2,432	33,235	(補正に係る主な業務内容)				
従事する職員数	1.5人	0.0人	1.5人	企画運営、普及啓発				
工程表の政策目標 (指標)	県内外への「食のみやこ鳥取県」の浸透、県産農林水産物のPR							

事業内容の説明

【「地方創生推進交付金」充当事業】

1 事業の目的・概要

鳥取県のジビエ活用については、県東部を中心に首都圏への出荷が進み、鹿の利用量が本州一（全国2位）（平成29年度）となるなど、全国的にも先進地として認知されつつある。

一方、平成30年度には新たに2つの解体処理施設が開業し、県内の生産体制が充実してきているが、新規解体処理施設等における処理技術の向上や販路拡大等が課題となっており、更なる品質の向上等により販路開拓を進める必要がある。

また、広く県民にジビエの普及を図るためには、ジビエの栄養素等に着目したPRも必要であり、アスリートとの連携等により「ヘルシーなジビエ」として訴求することで、更なる消費拡大につなげる。

2 主な事業内容

(単位 : 千円)

事業項目	事業内容	予算額
(新)新規開業施設等の技術向上・販路開拓等支援	新規開業施設等の処理技術の向上と販路の開拓を支援 ・施設管理者と県内料理人の肉質等に係る意見交換会 ・低利用部位の肉のメニュー開発	540
(新)ジビエの栄養素に着目したPR	ジビエの栄養素に着目し、アスリート等を中心に「ジビエがヘルシーで美味しい」ことをPR ・ジビエの栄養成分等をPRするパンフレットの作成 ・アスリート、フードマイスターを招聘したセミナーの開催 など	1,892
合 計		2,432

3 これまでの取組状況、改善点

○県東部では、平成24年5月に「いなばのジビエ推進協議会」が発足し、ジビエコーディネーターが中心となり、川上から川下まで連携して取り組んだことで、様々な成果を生んだ。

○県中西部においても、平成30年2月に「ほうきのジビエ推進協議会」が発足し、全県的にジビエ活用の取組が進みつつある。

< 県内解体処理施設の状況等 >

- ・新たな解体処理施設「ちづDeer's」(智頭町)、「大山ジビエ工房」(大山町)が開業
 - ・「わかさ29(にく)工房」(若桜町)、「日本猪牧場」(倉吉市)が鳥取県HACCP認証を取得
- ※H30年末時点での県内の解体処理施設は14か所

< ジビエ利活用の普及推進 >

- ・利用率(解体数量/捕獲数) 6%(H23)→24%(H29)
- ・農林水産省調査(H29)では、鹿のジビエ利用量は、鳥取県が本州一(全国で2位)
また、鹿・猪を含む全体のジビエ食肉利用量でも、鳥取県は全国で3位
- ・県内19市町村のうち12市町村の学校給食でジビエを提供(H30年度)

令和元年度 一般会計補正予算説明資料

8 款 土木費

2 項 道路橋りょう費

道路企画課 (内線 7 3 5 5)

4 目 直轄道路事業費負担金

(単位：千円)

事業名	補正前	補正	計	財 源 内 訳				備 考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
直轄道路事業費負担金	1,602,940	1,142,482	2,745,422	—	<721,500> 1,140,000	—	2,482	県費負担 723,982
トータルコスト	1,634,692	1,142,482	2,777,174	(補正に係る主な内容)				
従事する職員数	4.0人	0.0人	4.0人	山陰道などの県内高速道路にかかる整備促進				
工程表の政策目標(指標)	—							

事業内容の説明

1 事業の目的・概要

国が行う高速道路ネットワーク整備等の県内道路事業に係る県負担金である。

2 主な事業内容

国が行う県内の道路事業について、道路法第50条及び高速道路国道法第20条に基づき費用を負担し、国認証増に伴い負担金の補正要求を行うもの。

(単位：千円)

事業区分	平成30年度 国当初事業費	令和元年度		備 考
		国当初事業費	負担金	
新直轄 姫路鳥取線	1,823,000	2,527,000	252,700	付加車線整備 鳥取IC、智頭IC付近
国道9号 鳥取西道路	8,608,000	4,970,000	894,600	令和元年5/12全線開通
国道9号 北条道路	1,745,000	1,808,000	325,440	国坂地区ほか改良工事 北条高架橋下部工 はわいIC～大栄東伯IC
国道9号 米子道路	328,000	410,000	73,800	付加車線整備 日野川東IC～米子南IC
国道373号 志戸坂峠防災	—	40,000	7,200	令和元年度新規事業化
その他改築事業	2,587,000	3,508,000	1,191,682	国道183号鍵掛峠道路等
合計	15,091,000	13,263,000	2,745,422	

3 これまでの取組状況、改善点

【指標】 県内高速道路供用率(%) 70.2% (鳥取西道路開通前) ⇒80.2% (鳥取西道路開通後)

山陰道は鳥取西道路の全線開通で県内高速道路供用率は大幅に前進し、鳥取～米子間の移動時間は約15分短縮(移動時間約95分)され、地域の観光・産業振興の発展が期待される。北条道路(はわいIC～大栄東伯IC間:L=13.5km)は今年度から工事が本格化することとなり、整備促進に向けて県も必要な協力を行っていく。

山陰近畿自動車道(鳥取～福部間)は平成30年度からルート案について意見聴取等が開始され、引き続き早期事業化に向け、計画段階評価の促進に国・県・市が連携して取り組んでいきたい。

県内の高速道路は全て暫定2車線で供用されており、防災面で課題を有し、事故発生リスクも極めて高い状況である。今年度、志戸坂峠防災が新規事業化され、県境部の定時性・安全性確保に期待される。鳥取自動車道、国道9号米子道路等、整備中の付加車線の早期供用に向けて国に働きかけていきたい。

(注)起債欄の上段<>書きは、交付税措置額を除いた金額である。

県費負担は、起債欄の<>書きの金額と一般財源の金額を加算した額である。

令和元年度 一般会計補正予算説明資料

8款 土木費

2項 道路橋りょう費

道路建設課 (内線7623)

3目 道路橋りょう新設改良費

(単位：千円)

事業名	補正前	補正	計	財 源 内 訳				備 考																						
				国庫支出金	起債	その他	一般財源																							
地域高規格道路整備事業 [一般公共事業]	2,638,000	2,562,000	5,200,000	1,409,100	<921,000> 1,152,000		900	県費負担 921,900																						
トータルコスト	3,271,452	2,562,000	5,833,452	(補正に係る主な内容)																										
従事する職員数	79.8人	0.0人	79.8人	-																										
工程表の政策目標(指標)	地域高規格道路の整備促進 (地域高規格道路の整備延長)																													
事業内容の説明																														
1 事業の目的・概要																														
<p>地域高規格道路は、中国縦貫自動車道、山陰道、鳥取自動車道、米子自動車道等の高規格幹線道路を補完し、地域の自立的発展や地域間連携を支える規格の高い幹線道路であり、高規格幹線道路と一体となった広域的なネットワークを形成するものである。</p> <p>地域高規格道路の整備により、交通が分散され、渋滞、交通安全等の現道の諸問題が解消されるとともに、高等教育、高度医療、文化施設等の都市的サービスの共有化や恵まれた自然などの地域資源の活用を可能とし、近隣の地方生活圏との連携による地域の活性化が図られる。</p> <p>本事業では、国道の道路改築事業として県が実施中の以下の5箇所の整備を促進する。</p>																														
2 主な事業内容																														
○国道178号岩美道路 (「山陰近畿自動車道 (鳥取豊岡宮津自動車道)」の一部)																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>箇所</th> <th>延長</th> <th>幅員</th> <th>事業年度</th> <th>総事業費</th> <th>令和元年度予算計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>岩美郡岩美町陸上～本庄</td> <td>5,700m</td> <td>7.0(13.5)m</td> <td>平成20年度～</td> <td>313億円</td> <td>3,335百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>・事業効果：事故多発区間、冠水・線形不良箇所の解消、山陰海岸ジオパークの各観光地へのアクセス向上による観光振興</p>									箇所	延長	幅員	事業年度	総事業費	令和元年度予算計	岩美郡岩美町陸上～本庄	5,700m	7.0(13.5)m	平成20年度～	313億円	3,335百万円										
箇所	延長	幅員	事業年度	総事業費	令和元年度予算計																									
岩美郡岩美町陸上～本庄	5,700m	7.0(13.5)m	平成20年度～	313億円	3,335百万円																									
○国道313号倉吉道路・倉吉関金道路・北条倉吉道路 (延伸) (「北条湯原道路」の一部)																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>箇所</th> <th>延長</th> <th>幅員</th> <th>事業年度</th> <th>総事業費</th> <th>令和元年度予算計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(倉吉道路)倉吉市小鴨～和田</td> <td>4,050m</td> <td>7.0(13.5)m</td> <td>平成17年度～</td> <td>131億円</td> <td rowspan="3">1,540百万円</td> </tr> <tr> <td>(倉吉関金道路)倉吉市関金町関金宿～小鴨</td> <td>7,010m</td> <td>7.0(13.5)m</td> <td>平成23年度～</td> <td>197億円</td> </tr> <tr> <td>(北条倉吉道路(延伸))北条町弓原</td> <td>400m</td> <td>6.5(11.5)m</td> <td>平成29年度～</td> <td>24億円</td> </tr> </tbody> </table> <p>・事業効果：市街地の渋滞解消と安全性の向上、工業団地・農産物集出荷施設へのアクセス改善</p>									箇所	延長	幅員	事業年度	総事業費	令和元年度予算計	(倉吉道路)倉吉市小鴨～和田	4,050m	7.0(13.5)m	平成17年度～	131億円	1,540百万円	(倉吉関金道路)倉吉市関金町関金宿～小鴨	7,010m	7.0(13.5)m	平成23年度～	197億円	(北条倉吉道路(延伸))北条町弓原	400m	6.5(11.5)m	平成29年度～	24億円
箇所	延長	幅員	事業年度	総事業費	令和元年度予算計																									
(倉吉道路)倉吉市小鴨～和田	4,050m	7.0(13.5)m	平成17年度～	131億円	1,540百万円																									
(倉吉関金道路)倉吉市関金町関金宿～小鴨	7,010m	7.0(13.5)m	平成23年度～	197億円																										
(北条倉吉道路(延伸))北条町弓原	400m	6.5(11.5)m	平成29年度～	24億円																										
○国道181号江府道路 (「江府三次道路」の一部)																														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>箇所</th> <th>延長</th> <th>幅員</th> <th>事業年度</th> <th>総事業費</th> <th>令和元年度予算計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日野郡江府町武庫～佐川</td> <td>4,065m</td> <td>6.5(9.5)m</td> <td>平成17年度～</td> <td>119億円</td> <td>325百万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>・事業効果：踏切交差点や線形不良箇所での渋滞・事故の解消、事前通行規制区間の解消</p>									箇所	延長	幅員	事業年度	総事業費	令和元年度予算計	日野郡江府町武庫～佐川	4,065m	6.5(9.5)m	平成17年度～	119億円	325百万円										
箇所	延長	幅員	事業年度	総事業費	令和元年度予算計																									
日野郡江府町武庫～佐川	4,065m	6.5(9.5)m	平成17年度～	119億円	325百万円																									
3 これまでの取組状況、改善点																														
○国道313号犬狹峠道路 (地域高規格道路「北条湯原道路」の一部) 平成9年10月供用 延長9km (うち鳥取県6km)																														
○国道183号生山道路 (地域高規格道路「江府三次道路」の一部) 平成17年7月供用 延長3km																														
○国道313号北条倉吉道路 (地域高規格道路「北条湯原道路」の一部) 平成19年3月供用 延長6km																														
○国道178号東浜居組道路 (山陰近畿自動車道 (地域高規格道路「鳥取豊岡宮津自動車道」)の一部) 平成20年11月供用 延長4km (うち鳥取県2km)																														
○都市計画道路宮下十六本松線 (地域高規格道路「鳥取環状道路」の一部) 平成21年3月供用 延長4km																														
○国道313号倉吉道路 (地域高規格道路「北条湯原道路」の一部) 平成25年6月(倉吉IC～倉吉西IC間)部分供用 延長3km																														
○国道178号岩美道路 (山陰近畿自動車道 (地域高規格道路「鳥取豊岡宮津自動車道」)の一部) 平成28年3月(岩美IC～浦富IC間)部分供用 延長2km																														

(注)起債欄の上段<>書きは、交付税措置額を除いた金額である。

県費負担は、起債欄の<>書きの金額と一般財源の金額を加算した額である。

令和元年度 一般会計補正予算説明資料

8 款 土木費
4 項 港湾費
4 目 空港費

空港港湾課（内線 7 6 6 7）
（単位：千円）

事業名	補正前	補正	計	財 源 内 訳				備 考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
空港管理費	565,619	52,425	618,044		<27,000> 49,000		3,425	県費負担 30,425
トータルコスト	590,227	52,425	642,652	(補正に係る主な内容) 設計積算、入札・契約の締結、協議・調整				
従事する職員数	3.1人	0.0人	3.1人					
工程表の政策目標(指標)	—							

事業内容の説明

1 事業の目的・概要

鳥取砂丘コナン空港において、航空機の安全な運航を確保するための空港施設全般の保守管理や更新等に要する経費である。

鳥取空港の管理運営については、平成30年7月からコンセッション方式による民間委託を開始しており、鳥取空港ビル株式会社（運営権者）と実施契約を締結している。

実施契約では、県と運営権者との更新投資等の役割分担などを定めており、運営権者には空港の管理運営に必要となる経費の一部を運営費交付金として交付し、運営費交付金の対象外となる大規模な更新投資事業等については県が直営で実施する。

2 主な事業内容

(1) 国際線ターミナル屋根修繕工事（49,125千円）

国際線ターミナル（旧国際会館）は築22年以上（平成8年竣工）経過しているため、屋根の老朽化が全体的に進行しており、1階のコナンホール（観光客の記念撮影ポイント）や2階テナント部、建物出入口（風除室）など複数箇所ですり漏れが発生し、施設管理に支障をきたしている。

そのため、平成30年度の現地調査の結果、対策が必要と判断される箇所について、修繕工事を実施するものである。

(2) 低層風情報提供システム導入に伴う保守管理費（3,300千円）

航空機の離着陸時に大きな影響を与える低層の風（高度約300フィート以下の風≒90m）の状況を観測する低層風情報提供システム（通称：ソルウィン）は、県、JAXA（国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構）、システム開発会社の三者で覚書を締結（H30.2.6）し、平成30年8月から実証試験運用を行ってきた。

平成31年3月までに行われた実証試験の結果、実際に利用したパイロットの9割以上が当該システムの有効性を認めて継続利用を希望するなど、航空機の安全な着陸（安定した飛行）に一定の効果があることが確認されており、鳥取空港の安全・安心な管理運営をより一層推進するため、引続き利用を図るものである。

なお、本体装置は、JAXAから無償譲与を受ける。

3 これまでの取組状況、改善点

(1) 昨年7月28日のグランドオープン以降から今年3月末までの約8ヶ月間で、約36万人の一般来場者数を記録（対前年同期の約11倍）しており、特に、名探偵コナンを目的とした県外来訪者も大幅に増加するなど、空港が単なる移動の通過点から観光の目的地へと生まれ変わりつつある。そのため、県東・中部の空の玄関口にふさわしい施設として維持し、空港を訪れた観光客に満足していただく。

(2) 鳥取砂丘コナン空港はその地理的要因（海沿い、滑走路北東の丘陵など）から、低層風の影響が懸念される空港の一つとして挙げられる。そのため、離着陸時に大きな影響を与える低層の風の状況を観測し、その情報を運航中の航空機に提供することで、安全な就航につながることを期待される。

(注) 起債欄の上段<>書きは、交付税措置額を除いた金額である。

県費負担は起債欄の<>書きの金額と一般財源の金額を加算した額である。

令和元年度 一般会計補正予算説明資料

8 款 土木費
4 項 港湾費
4 目 空港費

空港港湾課（内線 7 6 6 7）
（単位：千円）

事業名	補正前	補正	計	財 源 内 訳				備 考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
ツインポート加速化促進事業	30,071	7,821	37,892	3,910			3,911	
トータルコスト	41,184	7,821	49,005	(補正に係る主な内容) 入札・契約の締結、協議・調整				
従事する職員数	1.4人	0.0人	1.4人					
工程表の政策目標(指標)	—							

事業内容の説明 【「地方創生推進交付金」充当事業】

1 事業の目的・概要

鳥取砂丘コナン空港と鳥取港が連携し、両港エリア一帯が県東中部・但馬地方の観光・交流・情報の拠点となることを目指し、「ツインポート」として交流人口の拡大と地域経済循環の加速化を図るため、誘客施設の機能強化として、名探偵コナンの世界観を楽しめるキッズコーナーの整備を行う。

2 主な事業内容

○キッズコーナーの整備（7,821千円）

昨年7月28日の空港ターミナルビル一体化のグランドオープンにより、新たに設置したシンボルオブジェや安室透のカラーオブジェを展示した喫茶ポアロなど「名探偵コナンの世界」や新しくなったテナントでの飲食や買い物などを目当てに多くの来場者で賑わっている。

特に、県外から来られた来場者の約6割が名探偵コナンを目当てに来場されるなど、名探偵コナン装飾への期待が大きく、今後もこの賑わいを持続させるとともにインバウンドを呼び込むためには、名探偵コナンの世界観をさらに深めることが重要である。

また、その一方で、空港内に子供の遊び場を求める声が多いことから、名探偵コナン装飾による鳥取砂丘コナン空港にしか存在しない、子どもをはじめ幅広い年齢層の方にも一緒に名探偵コナンの世界観を楽しめるキッズコーナーを整備し、さらに魅力を充実させる。

3 これまでの取組状況、改善点

平成30年7月からコンセッション方式による民間委託を開始するとともに、グランドオープンにより新たなテナントや名探偵コナン装飾が加わるなど、来場者にとってより楽しく、より快適に過ごせる施設と生まれ変わり、グランドオープン以降から今年3月末までの約8ヶ月間で一般来場者数が約36万人（対前年同期の約11倍）となり、特に、名探偵コナンを目的とした県外来訪者が大幅に増加している。

また、地域住民や商工・観光、両港関係者等で構成する「空の駅推進検討会」や「ツインポート懇談会」において、両港の賑わい創出の方策や課題を協議するとともに、県・市、鳥取空港ビル㈱により「空の駅・ツインポート推進チーム会議」（チーム長：統轄監）を立ち上げ、具体的な取組を推進している。

令和元年度 一般会計補正予算説明資料

8款 土木費
4項 港湾費
1目 港湾管理費

空港港湾課（内線7380）
（単位：千円）

事業名	補正前	補正	計	財 源 内 訳				備 考
				国庫支出金	起債	その他	一般財源	
(新) よなごベイウォーターフロント検討事業	0	989	989				989	
トータルコスト	0	989	989	(補正に係る主な内容)				
従事する職員数	0	0	0	支払事務、関係機関との調整				
工程表の政策目標(指標)	—							

事業内容の説明

1 事業の目的・概要

米子港周辺の中海に面する水辺空間は中心市街地に隣接しており、米子城跡などを含めた米子の魅力の中核を担う重要なエリアとなっている。

米子港では、米子市が昨年度策定した「中海・錦海かわまちづくり計画」に基づき、今年度から国、県、市が分担して親水護岸、栈橋、広場、駐車場等の整備に着手する。

そこで、これを契機にして米子港を含めたウォーターフロント（水辺）全体の活性化を目指す。

2 主な事業内容

産・学・官が一体となった「よなごベイウォーターフロント検討会（仮称）」を立ち上げ、米子港を含めたウォーターフロント全体の活性化に向けた方向性の検討を行う。

方向性検討にあたっては、パブリックコメント等により広く意見を求めるとともに必要に応じて民間企業へのヒアリング等を実施する。

3 これまでの取組状況、改善点

これまで米子港の再生を図るため、まちづくりや地域の賑わい創出の拠点としての活用について関係機関の意見を集約し、具体的にゾーン分けや規制状況の確認などの枠組みを整理してきた。

平成31年3月に米子市が国に申請した「中海・錦海かわまちづくり計画」が登録され、今年度から県は防災・安全交付金を活用して米子港の栈橋の再整備に着手する。

